

令和 5 年 5 月 30 日現在

機関番号：32686

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K13547

研究課題名（和文）ドイツ内陸地域のグローバル化：18世紀ザクセン地方における海外輸入品の流通と消費

研究課題名（英文）Globalization of German inland: Distribution and consumption of overseas products in the 18th century Saxony

研究代表者

菊池 雄太（Kikuchi, Yuta）

立教大学・経済学部・准教授

研究者番号：00735566

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：ヨーロッパ経済のグローバル化が進展した18世紀に、内陸ドイツ地域で砂糖やコーヒーなどの海外輸入物産がどれほど、どのように流通し消費されたのかを明らかにするために、ザクセン地方を事例として、文書館一次史料の分析に基づく研究を行った。輸送規模、間接税課税、価格情報などに基づく数値データに、商人の請願文書や流通・消費政策関連文書などを加えた分析により、18世紀後半に輸入品規制が緩和される中で流通・消費が拡大したことを明らかにした。成果は国内外への口頭報告に加え、海外ジャーナル投稿論文にまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在も進行する経済グローバル化の歴史的過程を紐解くと、18世紀にヨーロッパ諸国が展開したアメリカ大陸やアジアとの貿易は重要な発達期として位置づけられ、多くの研究が蓄積されてきた。しかし、従来の研究はアメリカ植民地およびアジア諸国と直接関係をもった西欧海洋諸国を対象が集中してきた。それに対して本研究は、中欧内陸部に位置するドイツ・ザクセン地方において、18世紀の経済グローバル化の社会経済的・制度的影響がどれほど及んでいたのかを測定し、世紀後半に規制緩和と流通・消費の拡大が進んだことが判明した。これにより、辺縁地域における経済グローバル化が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：This study, based on primary sources of German archives, argues how and how much overseas products such as sugar and coffee were distributed and consumed in the inland German territory of Saxony.

The analysis of numeric data such as transport volumes, taxation of excises and price information, and merchant petitions and policy documents related to commodity distribution and consumption in addition, reveals that the spread of overseas products was promoted in the last half of the 18th century, in parallel with the deregulation of distribution and consumption of imported goods. The research achievements were presented at conferences and meetings, and submitted to an international journal.

研究分野：経済史

キーワード：経済史 グローバル 消費 流通 市場 コーヒー 砂糖 ドイツ

1. 研究開始当初の背景

グローバル経済の歴史研究では、すでに多岐にわたる論点が提出されているが、近世・近代ヨーロッパ経済史における注目すべき新動向のひとつに、辺縁地域への関心の高まりが挙げられる。それまでの研究が、アジアや大西洋諸地域との貿易関係を拡大したイギリスやオランダなどの海洋諸国に関心を傾けてきたのに対し、海外地域と直接的には接触が少なかったドイツ地域も、繊維を中心とする工業製品の輸出を通じてグローバルな経済関係に組み込まれていたことが認識されてきたのである。このようなドイツ経済史における新動向の中で、豊かな研究成果が生まれてきた。しかし、欠落してきた側面もある。すなわち、内陸ドイツ地域における海外輸入物産の流通と消費はどのような展開をしたのか、という点である。このような背景のもと、本研究はザクセン地方の事例によって、研究の欠落を埋めようとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ドイツ内陸部という辺縁地域で海外(=非ヨーロッパ地域)輸入品の域内流通と消費がどこまで発達・普及していたのか明らかにし、上記した問題に対して実証的に裏付けされた答えを得ることである。対象とするのは、18世紀のザクセン地方である。その理由は、同地がこの時期に海外市場向け工業製品の生産を発展させ、人口や賃金の面でも購買力を増大させていたことが知られているからである。

すでに述べたように、近年のドイツ経済史では、ドイツ地域を含む中欧世界がグローバルな経済関係に主体的・積極的にかかわってきたことを示す研究が増加し、ひとつの研究潮流を形成している。しかし、このような研究の進展にも大きな欠落が残されている。研究者の関心は、ドイツ商人の海外進出と製品販売という外へ向けた動きに向けられるか、その背景にある製造業の発達という生産面に集中してきた。言い換えれば、先行研究は供給サイドに偏ってきた。経済史全体にそのような傾向がみられるが、とりわけドイツ経済史研究にそのことが当てはまる。これは、経済史・商業史研究における重大な欠落である。このような欠落を埋めることを目的に、本研究は、海外輸入品の域内流通と消費という需要サイドに着目した。これによって、辺縁地域のグローバル化現象をより日常生活のレベルに近づけた切り口からとらえることが可能となるのである。

3. 研究の方法

本研究は、ドイツ・ザクセン地方の文書館に所蔵されている一次史料を用いて進められた。そのためには現地での史料調査が不可欠であったが、Covid-19の影響により、予定を大幅に変更しつつ計画を進めなければならなかった。その結果、入手することができた史料の種類・量は限られることになった。分析した史料の中には、本課題研究期間以前にデジタル化した但未整理・未検討であったものも含む。しかし、このような制限にもかかわらず、史料分析によって得られた情報は想定以上に豊富であった。また、18世紀に刊行されたザクセンの法令集を購入することができ、これは流通・消費関連制度を考察する上で基礎となる素材として利用できた。

本課題研究で調査分析した史料は、主に以下のものである。

(1) 物品取引間接税(アクツィーゼ)徴収記録

ザクセンでは18世紀に、物品取引間接税(アクツィーゼ)が領邦全域に導入された。18世紀後半の一時期について、課税されたコーヒーの重量を都市ごとに示した史料が残されている。消費税としての性格と内国関税としての性格を併せもつ間接税であるため、そこに示されたものは必ずしも地域の小売・消費をあらわしているとは限らないが、ザクセン領邦内における流通・消費の地域的傾向を大掴みに把握することは可能である。

(2) 海外物産輸入および農村部流通・消費規制に関する種々の史料

18世紀のザクセンの中央政府や管区では、砂糖やコーヒーなどの輸入や、農村部への小売りと消費を制限するべきかが否かが激しく議論された。先行研究によりそのことは知られてはいるが、ザクセン内の地域や都市により利害関係や制度の実効性が異なっていた点は、見落とされてきた。その内容を綿密に追うことで、規制と流通・消費動向の関係を明らかにすることができると考えられる。

4. 研究成果

上記した方法に従い実施した研究の成果を以下に示す。

(1) 物品取引間接税（アクツィーゼ）徴収記録分析の結果

記録が残る 1774～90 年にかけての、間接税徴収都市ごとのコーヒー重量を、図のようにマッピングした。

図：アクツィーゼ徴収都市における課税コーヒーの重量
1774～90 年平均 単位：ツェントナー（110 ポンド＝約 53kg）



ここから明らかなように、ライプツィヒがコーヒー売買地として突出した位置を占めている。これは、同市で開催された国際大都市によるところが大きい。ライプツィヒの課税コーヒーのうち、大都市で取引されたものが 92.5 パーセントを占めていたことが、史料に記載されているからである。ライプツィヒ大都市には、ハンブルクやイギリス、オランダ、イタリア、さらにポーランドやロシアから取引業者が集結したほか、地元ザクセンの人びとも来訪していた。割合は不明であるが、一部は諸外国へ、一部はザクセン領内に再出荷されたものと考えられる。

ライプツィヒのデータからはこれ以上のことは不明であるため、次に注目したいのは、同市に次ぐ取引量の都市である。第 2 位に位置するのはザクセンの首都（宮廷都市）ドレスデン。第 3 位は、亜麻織物工業地帯オーバーラウジッツの中心都市ツィタウであった。再輸出を考慮に入れなくてはならないとはいえ、宮廷都市での記録の大きさから、同市の貴族・上層市民の購買力が大きかったことがうかがわれる。

一方で注目されるのがツィタウを擁するオーバーラウジッツである。同地方は農村工業が発達した地域であり、工業生産の発達に伴う購買力の増加がみてとられるのである。さらに、上記史料の期間内での変化にも注意を払う必要がある。

表：ドレスデンとツィタウにおける課税コーヒー重量の変化

単位：ツェントナー（110 ポンド＝約 53kg）

	1774	1775	1776	1781	1782	1783	1784	1785	1786	1787	1788	1789	1790
ドレスデン	2,249	2,664	2,406	1,656	2,266	3,082	2,285	2,047	2,163	2,007	1,974	1,603	1,736
ツィタウ	270	298	237	175	271	338	383	613	967	960	1,048	815	977

表から分かるように、1780 年代後半には、ツィタウとドレスデンの数値差が縮まっている。史料期間に先行する時期は、ザクセンとプロイセンの間で大規模な戦闘が続けられ（七年戦争：1756～63 年）、ザクセンは戦争を通じた荒廃から復興するのに時間がかかった。とくに亜麻織物生産地帯が被った被害は甚大で、生産が回復するのは 80 年代後半であったとされる。したがって、オーバーラウジッツの通常の消費力は 80 年代後半の数値をみるべきである。オーバーラウジッツの管区調査報告によれば、1764 年から 80 年にかけての、つまり七年戦争の被害により消費が低迷していた頃の同区内におけるコーヒー、砂糖等の嗜好品 Materialwaren 取引量は、都市 82 パーセントに対して農村 18 パーセントであった。通常であれば農村はこれ以上の割合を占めていたはずである。

(2) 海外物産輸入および農村部流通・消費規制に関する種々の史料の分析結果

本課題研究成果と、前課題研究から得られた史料分析結果をあわせてみると、18 世紀後半のザクセンで輸入物産の流通・消費が拡大した一方で、近隣のプロイセンではそのような発展が限定的であったことが分かった。その背景のひとつとして、政策面での相違に着目し、ザクセンにおける重商主義的な海外物産輸入規制および農村部における流通・消費規制の特徴を検討した。

結論としては、ザクセンでは 18 世紀中頃までは海外輸入物産の輸入規制へ向かう動きがみられ、また、農村部における流通・消費についても、規制論が強かった。規制をかける根拠となる論理は両者で異なるが - 前者は貿易黒字を目指す重商主義的な輸入制限、後者は都市商人組合の既得権益保護 - 、いずれも 18 世紀後半から 19 世紀前半にかけて、部分的自由化へと舵が切り直された。

領邦政策部局や管区の調査報告、所見、議事録などや商人層の請願などを丹念に追った結果、ザクセンで徹底した流通・消費規制がなされなかったのには、大きくふたつの背景があったことが判明した。ひとつは、大市商業都市ライプツィヒの利害である。大市の発展は、外来商人の来訪と商品取引が自由であることを要件としていた。そのためライプツィヒは輸入規制に対して強固な反対の立場をとり、また、ライプツィヒ大学出身の官僚もそれに呼応した。さらに、ライプツィヒ大市にとっては、農村からの来訪者も重要な存在であった。そのため、他都市と異なり、農村商業の発展も許容していた。

農村部における流通・消費規制緩和については、重要な背景がもうひとつ判明した。1767 年にザクセン全域を対象に農村商業を規制する訓令が出されたが、上述した農村工業地帯オーバーラウジッツでは実施が見合わされていたのである。管区内の都市商人層はそれに対し苦情を繰り返したが、主に以下の理由から訴えは受理されなかった。①ザクセン領邦内で辺縁部に位置していたオーバーラウジッツ、それも農村地帯では、規制管理が困難であること、②同地域はもともとボヘミア王国領であり、独自の制度が残存していたため、領邦全般を対象とする制度をそのまま導入できないこと、③同地域の工業製品輸出を促進するには、輸出に対する交換として海外物産を積極的に輸入する必要があること。

このような背景から制度がなし崩しにされていく中で、オーバーラウジッツ農村地帯では、輸入海外物産の流通と消費が拡大したのである。そして、同地域における特別扱いを皮切りとするように、別地域においても、18 世紀末以降、流通・消費許可の請願が提出され、認可されていった。

以上述べた内容は、国内外の研究会、学会で日本語および英語で口頭発表し、さらに 1 本の英語論文にまとめ、国際経済史ジャーナル (Jahrbuch für Wirtschaftsgeschichte/Economic History Yearbook) に投稿し査読を受け、受理された (掲載号未定)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Yuta Kikuchi	4. 巻 -
2. 論文標題 Reach of globalization in German economy: Atlantic products from Hamburg to Saxon markets in the 18th century	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Jahrbuch fuer Wirtschaftsgeschichte/Economic History Yearbook	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Yuta Kikuchi
2. 発表標題 Central European Markets in the Eighteen-Century Global Economy: Evidence from Hamburg and Saxony
3. 学会等名 Kulturgeschichtliches Kolloquium（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊池雄太
2. 発表標題 大西洋貿易の拡大とドイツ内陸地域：18世紀ハンブルク - ザクセンにおける植民地物産の流通と消費
3. 学会等名 西洋史研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊池雄太
2. 発表標題 大西洋植民地物産の流入とドイツ地域経済空間：18世紀における“ハンブルク - ザクセン枢軸”の形成
3. 学会等名 日本ハンザ史研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菊池雄太
2. 発表標題 大西洋経済の中のハンブルクとザクセン：植民地物産を通じた地域経済空間の形成
3. 学会等名 第91回社会経済史学会全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuta Kikuchi
2. 発表標題 German regions in the early modern Atlantic Economy: Comment on Klaus Weber
3. 学会等名 IHR seminar series: Economic and Social History of the Early Modern World, 1500-1800 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuta Kikuchi
2. 発表標題 Central European Markets in the Eighteen-Century Global Economy: Evidence from Hamburg and Saxony
3. 学会等名 Kulturgeschichtliches Kolloquium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊池雄太
2. 発表標題 ドイツ内陸地域における植民地物産の流通と消費：18世紀後半のザクセン地方
3. 学会等名 西洋史研究会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------